

**会員事業所景況実態調査令和5年7月～令和5年9月分集計結果**  
**調査依頼数:574 回答数 83 回答割合:14.4%**

令和5年度2回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。  
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。  
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

**★DI値とは**

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。  
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

**【質問 A】 前年同時期と比較した7月～9月の景況**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	16	39	28	83	▲ 14.5	5.5	▲20.0
	採算	13	41	28	82	▲ 18.3	▲ 15.3	▲3.0
	仕入単価	1	24	56	81	▲ 67.9	▲ 70.4	2.5
	従業員	30	51	2	83	33.7	37.5	▲3.8
	業況	9	49	25	83	▲ 19.3	▲ 6.9	▲12.4
	資金繰り	4	61	18	83	▲ 16.9	▲ 9.7	▲7.2
建設・建築業	売上	4	6	7	17	▲ 17.6	▲ 6.3	▲11.3
	採算	3	8	6	17	▲ 17.6	▲ 12.5	▲5.1
	仕入単価		4	13	17	▲ 76.5	▲ 75.0	▲1.5
	従業員	8	9		17	47.1	43.8	3.3
	業況	3	10	4	17	▲ 5.9	6.3	▲12.2
	資金繰り	2	14	1	17	5.9	6.3	▲0.4
製造業	売上		6	6	12	▲ 50.0	8.3	▲58.3
	採算		6	5	11	▲ 45.5	▲ 41.7	▲3.8
	仕入単価		6	6	12	▲ 50.0	▲ 81.8	31.8
	従業員	4	6	2	12	16.7	16.7	▲0.0
	業況		5	7	12	▲ 58.3	▲ 8.3	▲50.0
	資金繰り		7	5	12	▲ 41.7	▲ 16.7	▲25.0
卸・小売業	売上	4	6	4	14	0.0	11.1	▲11.1
	採算	3	6	5	14	▲ 14.3	12.5	▲26.8
	仕入単価		5	9	14	▲ 64.3	▲ 62.5	▲1.8
	従業員	4	10		14	28.6	25.0	3.6
	業況	5	4	5	14	0.0	▲ 37.5	37.5
	資金繰り	1	7	6	14	▲ 35.7	▲ 25.0	▲10.7
飲食・サービス業	売上	6	9	4	19	10.5	31.3	▲20.8
	採算	6	8	5	19	5.3	18.8	▲13.5
	仕入単価	1	7	10	18	▲ 50.0	▲ 56.3	6.3
	従業員	7	12		19	36.8	43.8	▲7.0
	業況	1	16	2	19	▲ 5.3	18.8	▲24.1
	資金繰り	1	17	1	19	0.0	0.0	0.0
不動産・その他	売上	2	12	7	21	▲ 23.8	▲ 10.0	▲13.8
	採算	1	13	7	21	▲ 28.6	▲ 40.0	11.4
	仕入単価		2	18	20	▲ 90.0	▲ 75.0	▲15.0
	従業員	7	14		21	33.3	45.0	▲11.7
	業況		14	7	21	▲ 33.3	▲ 25.0	▲8.3
	資金繰り		16	5	21	▲ 23.8	▲ 20.0	▲3.8

**(全体)**

仕入単価のDI値がほんのわずかに改善したが、依然としてDI値は▲70ポイント近くとマイナスポイントが高い状態が続いている。  
 従業員も若干人手不足感が弱まったが、依然として人手不足感が強い状態が続いている。一方、売上はDI値が20ポイント悪化し、DI値がプラスからマイナスに転じている。

**(建設・建築業)**

全項目において前回より悪化しており、特に売上、業況はDI値10ポイント以上悪化している。仕入単価はDI値が▲75ポイント以上と依然としてとしてマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員でも前回より若干であるが人手不足感が強まりDI値も45ポイント以上となっている。資金繰りはDI値は若干悪化したが、依然としてDI値がプラスの状態が続いている。

**(製造業)**

仕入単価では30ポイント以上と大幅に改善したが、DI値は依然として▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。  
 一方、売上では60ポイント近く、業況では50ポイント以上、資金繰りでは25ポイント以上と大幅に悪化している。DI値も売上、業況は▲50ポイント以上、資金繰りはDI値▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなっている。

**(卸・小売業)**

業況は前回より35ポイント以上と大幅に改善しており、DI値もプラスマイナスゼロまで改善している。一方、業況以外はDI値が悪化しており、特に採算は25ポイント以上悪化し、DI値もプラスからマイナスに転じている。仕入単価は若干しか悪化していないが、DI値は依然として▲60ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。

**(飲食・サービス業)**

仕入単価は若干改善したが、DI値は依然として▲50ポイント以上と高い状態が続いている。従業員では若干人手不足感が弱まっているが、

依然としてDI値は35ポイント以上と高くなっている。一方、売上、業況は20ポイント以上と大幅に悪化し、業況はDI値がプラスからマイナスに転じている。

**(不動産・その他)**

採算は10ポイント以上改善し、従業員も10ポイント以上改善し人手不足感が弱まっている。一方、売上、仕入単価は10ポイント以上悪化し、特に仕入単価はDI値が▲90ポイント以上と非常にマイナスポイントが高くなっている。

**【質問 A】 9月と比較した10月～12月の先行き見通しについて**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	16	40	26	82	▲12.2	1.4	▲13.6
	採算	11	41	30	82	▲23.2	▲26.4	3.2
	仕入単価	1	26	54	81	▲65.4	▲63.4	▲2.0
	従業員	34	45	4	83	36.1	38.9	▲2.8
	業況	8	42	33	83	▲30.1	▲16.7	▲13.4
	資金繰り	3	64	16	83	▲15.7	▲16.9	1.2
建設・建築業	売上	3	8	5	16	▲12.5	18.8	▲31.3
	採算	2	10	5	17	▲17.6	0.0	▲17.6
	仕入単価		4	13	17	▲76.5	▲62.5	▲14.0
	従業員	8	9		17	47.1	43.8	3.3
	業況	3	10	4	17	▲5.9	18.8	▲24.7
	資金繰り	1	15	1	17	0.0	6.3	▲6.3
製造業	売上	3	2	7	12	▲33.3	8.3	▲41.6
	採算	1	5	5	11	▲36.4	▲66.7	30.3
	仕入単価		6	6	12	▲50.0	▲54.5	4.5
	従業員	6	4	2	12	33.3	16.7	16.6
	業況	1	4	7	12	▲50.0	▲41.7	▲8.3
	資金繰り		7	5	12	▲41.7	▲33.3	▲8.4
卸・小売業	売上	4	7	3	14	7.1	▲11.1	18.2
	採算	4	7	3	14	7.1	▲25.0	32.1
	仕入単価		4	10	14	▲71.4	▲50.0	▲21.4
	従業員	6	8		14	42.9	12.5	30.4
	業況	2	6	6	14	▲28.6	▲37.5	8.9
	資金繰り	1	9	4	14	▲21.4	▲42.9	21.5
飲食・サービス業	売上	4	10	5	19	▲5.3	0.0	▲5.3
	採算	4	8	7	19	▲15.8	▲6.3	▲9.5
	仕入単価	1	8	9	18	▲44.4	▲56.3	11.9
	従業員	8	11		19	42.1	43.8	▲1.7
	業況	1	13	5	19	▲21.1	▲12.5	▲8.6
	資金繰り	1	18		19	5.3	▲6.3	11.6
不動産・その他	売上	2	13	6	21	▲19.0	▲10.0	▲9.0
	採算		11	10	21	▲47.6	▲40.0	▲7.6
	仕入単価		4	16	20	▲80.0	▲80.0	0.0
	従業員	6	13	2	21	19.0	55.0	▲36.0
	業況	1	9	11	21	▲47.6	▲25.0	▲22.6
	資金繰り		15	6	21	▲28.6	▲25.0	▲3.6

**(全体)**

採算、資金繰り、従業員では前回より若干ではあるが改善する見通しとなる。従業員は依然としてDI値が高めで人手不足感は強い見通しである。一方、売上、業況では10ポイント以上悪化する見通しであり、売上のDI値はプラスからマイナスに転じる見通しである。

**(建設・建築業)**

全項目において前回より悪化する見通しであり、特に売上は30ポイント以上、業況は20ポイント以上悪化する見通しである。両方ともDI値がプラスからマイナスに転じる見通しである。仕入単価ではDI値が▲75ポイント以上とさらに悪化する見通しである。

**(製造業)**

採算、仕入単価は前回より改善する見通しであり、特に採算では30ポイント以上と大きく改善する見通しである。一方、売上では40ポイント以上と大幅に悪化する見通しである。DI値を見ると、仕入単価、業況が▲50ポイント以上、資金繰りは▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなる見通しである。

**(卸・小売業)**

仕入単価、従業員以外は改善する見通しであり、特に採算は30ポイント以上、資金繰りは20ポイント以上と大幅に改善する見通しである。さらに売上、採算はDI値がマイナスからプラスに転じる見通しである。一方、仕入単価では20ポイント以上、従業員では30ポイント以上と大きく悪化する見通しである。

**(飲食・サービス業)**

仕入単価、従業員、資金繰りに関しては改善する見通しであり、特に仕入単価、資金繰りでは10ポイント以上改善する見通しである。資金繰りではDI値がマイナスからプラスに転じる見通しである。一方、売上、採算、業況は若干の悪化となる見通しである。

**(不動産・その他)**

従業員では30ポイント以上と大きく改善し人手不足感が大幅に弱まる見通しである。仕入単価は悪化はしないが、依然としてDI値が▲80ポイント以上と非常にマイナスポイントが高くなる見通しである。一方、業況では20ポイント以上悪化しDI値も▲40ポイント以上と高くなる見通しである。